

第 57 回豊岡市行財政改革委員会 発言要旨

開催日時 2023年4月20日(木) 午後2時～午後4時
開催場所 オンライン開催
出席委員 石原委員長 田村副委員長 高橋委員 中谷委員 西村委員 三笠委員
参加職員 政策調整部長 総務部長 デジタルトランスフォーメーション推進部長
事務局: DX・行財政改革推進課長 DX・行財政改革推進課職員
傍聴人 4名

《報告》

事務局: 《資料1、2 説明》

委員長: 財政健全化の観点では、これぐらい圧縮しなければならないというのはあるが、住民の思いもいろいろあり、それをいかにクリアにしていくかということにもなる。複合化、多機能化、廃止の対象となる施設がどんなサービスを提供しているのか、どれぐらい利用しているのかということをきめ細やかに説明することが求められてくる。近隣の市町と比べると、豊岡は、将来世代負担比率が圧倒的に低い。ハコモノ、インフラなどの借金は返してしまっているが、逆に言うと老朽化した施設が多いという状態だ。受益者負担割合を忘れてはダメで、いただくものはいたただかなければならないが、豊岡はこれが低い。行財政改革委員会なので、財政健全化が半分、他方で、住民サービスは落とさない、向上させていきたい、というバランスをうまくとりながら考えていく必要がある。

《議事》

(1) 第5次行財政改革のめざす姿・取組みの柱について

事務局: 《資料3、4 説明》

委員長: 01～05の柱建てについて、前回の委員会でのご発言から要約するとこの5本となるが、この5本でよいかどうか、過不足があればご意見をいただきたい。大綱なので、役所、議会、市民の皆さんに柱建ての流れが理解していただきやすいような形というのも大事かと思うので、どういう並べ方をすればいいか、この2点について委員の皆さまのご意見をいただきたい。

委員: 01は、「市民のニーズをしっかりと理解したうえで」というのが重要なところだと

思うので、この柱は大事にしてもらいたい。いろいろと削減しなければいけないことはあるが、苦痛ばかりではマイナス思考ばかりになるので、ニーズをくみ取るというのは大事なところだ。

委員： 01と02が市役所、職員の категорияであり、03と04が担い手の多様化、デジタル技術など手段の話で、04はめざす姿のゴールに近いので、最終的にめざす姿に置く方がいいのでは。

委員： 柱建てとしてはいいと思うが、04と01が同じようなことに思えるのでもう少し整理できないか。03は前の行革大綱でも同じようなことが出ていたが、ここが進んでいないところではないかと思うので、ここはぜひ入れておきたいところだ。

委員： 04は一番後ろでもいいのでは。行財政改革大綱のわりには、大項目や中項目にあまりお金の話が出ていないのではないかと思う。あえて外しているということなのか。歳出カットのニュアンスなどをここで出すのかどうか、はっきりさせた方がいいのでは。いいことばかりではなく、痛みもあるということが伝わりにくいように思う。やさしいことばかりで改革は大丈夫なのかという印象を持たれるのではないか。

委員： 02が気になる。PDCAを回して結果にコミットするということなのかなと思うが、それが「自分ごと化している」という一言でいいのか、もう少し踏み込んで、「責任を明確にしてやる」というような書き方にしてもいいのではないか。「自分ごと化」に対して評価や責任がリンクしているというのが必要ではないか。

委員長： 財政の議論が足りないのではというご意見があったが、02、04あたりはどうか。04は受益者負担の問題がからめられるのではないかと思うが、当局の意見はどうか。

事務局： 財政、働き方改革系の話が出ていないというのは迷いがあつたところだ。財政、経費削減の話は、02から書き出すのがいいのかという思いはある。04の「納得」という文言は、納得はできないけれども議論を尽くして納得していただくというフェーズではないかと考え、「納得」という言葉を選んだ。04とめざす姿に近いというところは考えていたところであり、ご指摘のとおりだと思う。そもそも、めざす姿がこれでいいのかという点もご議論いただきたい。

委員： 市役所職員も市民であることを踏まえ、柱として強調してもいいのではないか。市を代表してエンゲージメント高く働けること自体が将来につながっていくところを盛り込めるとバランスが良くなるのではないか。

委員長： 行財政改革を狭義に理解すると市役所改革になる。様々な社会問題が発生する中で、行政のみで公的ニーズに対応することはできないので、多様なアクタ

一が公共に参画するのが今日の流れである。大綱をどの範疇まで広げるのかを目指す姿に書いておくと柱がうまく整理できるのではないかと思うがどうか。

委員長： めざす姿を考えると、最小の経費・最大の効果という言葉を使い、目的として、「公共サービスを提供する市役所になっている」を入れる。03関係には、「住民の参画」を入れるとまとまるのではないかと思う。働き方関連は02に関わってくる。04は、納得という言葉からも財政問題と絡んでくるのではないか。

委員： めざす姿は「～市役所になっている」でいいのか。いろんな人が関わっていく中で、「市役所」でいいのか少し違和感がある。

委員： 「持続可能」や「将来世代に残してあげられる」など、未来の豊岡市のためになるみたいな方がいいのではないか。

委員長： 豊岡市がこれからどうなっていくんだという形を目指す姿で示し、従前からの行政改革は02で、財政再建的なところは04で、住民の参画等については03で、DX・AI関係は05としてはどうか。

事務局： めざす姿はアウトプットのイメージで、そういう市役所になれば、もう一つ上位で、地域や社会がこうなっていくというような構造ではないかという議論をしながら、市役所としてはどうあるべきかということ置くのがいいのではないかということによってこのようにした。

委員長： 役所の役割というのは、ファシリテーターである。行財政改革大綱なので、どういう市役所になるかを示すときに、「持続可能な地域づくりを実現するファシリテーターとして」などとして、「住民参画」「最小経費・最大効果」「ファシリテーターとしての市役所」「持続可能な」「SDGs」などのキーワードがめざす姿にあれば、柱建てがうまく構築できるのではないかと思う。

委員： めざす姿は、市民の皆さんにちゃんと届くような言葉があればいいと思う。

委員： めざす将来像、サステナビリティ、市民のための行革のようなメッセージになるような言葉を入れるといいのではないか。

委員： 市役所だけでなく、市民を巻き込んでいかなないと行革はできないと思うので、その辺がわかるような表現が入ればと思う。

委員： 何のために変える必要があるのかを書いた方が良く。変えること自体が目的になる表現ではなく、目的があるから変えなければならない、経費削減しなければならないなど、目的に対してみんなの気持ちが揃うような表現にできるというんな方に共感してもらえるのではないか。

委員： 多様性、若者、将来の人たちなど、豊岡で育って住みたいと思うようなことが反映されるといいのではないか。

委員長： めぎす姿に「多様性」を入れるとすれば、「多様性を踏まえ、市民のために持続可能なまちづくりのできる市役所になっている」ということになるのかなと思うが、どうか。

委員長： めぎす姿を実現するために、5本柱で説明するなら、政策立案がちゃんとできているということが02、多様性や住民の皆さんが主体であり公共の担い手が多様化しているということが03、財政問題も踏まえ地域住民の皆さんにも協力・支援いただくこともあるというのが04、デジタル技術の問題は住民の皆さんの理解がないと進まないところもあるというのが05

委員長： ニーズの理解というのは、職員だけでなく市民も含むこと。地域づくり・まちづくりの中核ファシリテーターとして市役所があり、市民の皆さんも一緒にやりましようというのが大事である。

事務局： そうすると、03の公共の担い手の多様化と重ならないか？

委員長： 重なるかもしれないのでそこは整理してもよいのではないか。

委員長： 住民の皆さんの参画と協働がこれまでどれくらいできていたのかという視点で行財政改革をもう一度見直さなければならない。世の中は、ダイバーシティ、社会的弱者など、行政がタッチできない小さな社会問題に対してみんなで問題解決しようとするときには、いろんな住民に参画していただくことが必要になる。これまで、サービスを受ける側だった住民が、場合によってはサービスを提供する側にもなりうるという時代になってきている。

委員長： 今までの行革と違い、働き方改革なども入ってくるが、なかなか難しい問題でもある。言葉ではいいことを言っているけど、現実問題として理解されにくいところもある。

事務局： 市役所の働き方改革で働きやすい職場になり、職員のエンゲージメントが高まった結果、それが地域にとってプラスになるという論理が整理できて伝えられると、市役所はDXを高めていくということが堂々と言えるようになるのではないかと考えているが、どうか。

委員： 働き方の柔軟性が高まることにより、提供サービスの柔軟性も高められるというような実験をし、そのノウハウやナレッジを市の事業者の方々にも展開できないか。エンゲージメントが高まれば、もっといいサービスを提供しようという気持ちになれるということはすでに証明されている。

委員： めぎす姿の「多様性を踏まえる」というところは、いろんな方を巻き込んで多様化させていこうという話からすると、「多様性を活かす」と表現する方がいいのではないか。

委員：方向性として、市役所の人たちが「これでいくぞ」という気持ちになるような表現であればいい。

委員：市役所職員が生き生きと働いていると、「いいまちだな」と感じるのも、新しい方や若い方の意見も組み込まれていくようなところが見えるといいのでは。

委員長：めざす姿については、「多様性を活かす」を採用し、「市民のための持続可能なまちづくりのできるし市役所になっている」という形で整理し、柱の並びとして、多様性を活かすという03を一番上に持ってくるという順番がいいように思う。これを受け、市民のためのという内容の01、02、04の話が入り、そのあと、今回の新たな論点となるデジタルの話05になるのかなと思うが、どうか。

委員：柱の流れとしては、03が一番上で違和感はない。

委員：財政計画を明確にしきちんとコミットメントして達成するということが、行財政とりわけ財政には必要であり、市民のためにもなるんだというところは入れてもらいたい。

委員長：細かな表現については、委員長、事務局にご一任いただき、まとめさせていただきます。